

多高通信

第176号 令和2年 3月27日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

祝 42回卒業おめでとう！

3月1日、第42回卒業証書授与式が行われ、多賀城市長・菊地健次郎様ほか、たくさんの御来賓の方々の御列席を賜り、多くの保護者に見守られながら、42回生普通科237名、災害科学科39名の計276名が学び舎を巣立っていきました。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、卒業生と保護者のみの参加となつてしまいましたが、それでも、厳粛な雰囲気の中で素晴らしい式を行うことができました。



語学研究部

松島町に寄付をしました



2月14日、語学研究部2年秋元優那さん、阿部野乃佳さんが、多賀城市国際交流協会の方と共に、松島町長を訪問し、台風19号で被災した松島町に寄付金を届けました。この寄付金は、昨年未参加した「だがさほのクリスマス雑貨市」の売り上げリスマス雑貨市」の売り上げと、多賀城市国際交流協会に寄付されたもので、桜井町長からは、松島町のこれらについてお話をいただきました。

2年4組 阿部野乃佳(多賀城二中出身)



実際に松島町役場に行き、町長さんに手渡しということでも少し緊張しましたが、寄付金を渡した後、町長さんから松島のさらなる発展や観光地としての取組や、松島高校の活動の紹介などが聞けました。この活動を通して、貢献することができたと感じています。

サステナブル・ブランド

国際会議 2020 横浜

日頃からのESD活動が全国的に認められ、2月19日、20日の2日間、横浜で行われたサステナブル・ブランド国際会議へのご招待を頂き、参加してきました。



サステナブル・ブランド国際会議とは、社会課題解決と事業戦略の統合にこそ鍵があると考えている各企業が一同に会し、気候変動や人権問題など、取組が急務となつている現代社会の課題の解決について発表やディスカッションを行う国際会議で、第4回である今年度はSDGs未来都市である横浜市で開催され、サステナブル・ブランドのコミュニティと共に、未来への「答え」を見つけましょう。」を合い言葉に行われました。



「GOOD LIFE」をつくる私たちの学び」というセッションでした。横浜市立日枝小学校校長の住田 昌治先生、株式会社 朝日エル会長の岡山 慶子氏をファシリテーターとしてパネルディスカッションが行われ、そのパネラーとして災害科学科3年の阿部竜生君が参

加し、3年間の学びを通して自分がどのように変容していったかを発表しました。実際に現地に赴くことでしか分からないこともたくさんある」という発表に、参加の方々から盛大な拍手を頂きました。発表後は、今後の活動や問題点についてのパネルディスカッションを行いました。問題意識はみんな共有しているのに、それが行動につながらない。環境は自分で作るもの。各個人がプレイヤーになることが必要。「身の回りのできることから始めることが、持続可能性につながる。」「ここに参加している人たちは意識が高い。だからこそそれを周りの人に広げて欲しい。」といった意見が交わされました。最後にファシリテーターから、ESDは学校現場だけのものではなく、その学びを通して価値やライフスタイルの変容を担ってきた。自分たちがロールモデルになり、人が豊かになっていくことが大事である。」とお話をいただき散会となりました。

第5回 全国被災地

語り部シンポジウム「東北」

2月24日、南三陸町のホテル観洋で、第5回全国被災地語り部シンポジウム「東北」が行われ、本校より生徒4名が参加しました。



震災遺構の案内

まずホテル観洋の語り部伊藤さんの案内で、戸倉小学校、戸倉中学校、震災遺構高野会館を巡りました。ホテルに戻り、基調講演とメインディスカッションを行った後は、小・中学生、高校生で行われた分科会 未来への伝承、震災遺構と私たちの向き合い方」に参加しました。多くの方々との意見交換を通し、学びを深めることができました。

3年7組 菅野圭汰(東仙台中出身)

バスで語り部さんの話を聞きながら震災遺構を巡りました。高野会館の中は、まるであの3月11日から時間が止まったかのように津波の生々しい爪痕を私たちに見せつけました。

の保存について話し合いました。気仙沼や釜石など被害が大きい地域の生徒から津波の体験談を自分の耳で直接聞くことができたことは、これから大学で防災・減災を学ぶ上で大きな糧となると思います。時間が過ぎるのが早く感じ、気がつけば終わっていた、そんな濃い一日となりました。

3年7組 川名啓介

(南郷中出身)

語り部バスでは、津波がどのように到達したかや、どのように避難したかなど当時の様子を教えてもらいました。語り部の方々がいるからこそ、あの日の出来事をたくさんの方に伝え、次に備えることができると感じました。

また、分科会では、震災遺構について話し合い、地域が違うからこそ様々な意見が出て、とてもよい経験ができました。学んだことを活かして、私もたくさんの方に東日本大震災の教訓を伝えていきたいと思います。



校内教職員研修会

深い学びを促すカリキュラム・マネジメント

2月20日、関西大学教育推進部の森朋子教授を講師としてお招きし、校内教職員研修会を行いました。深い学びを促すカリキュラム・マネジメントをテーマに、新学習指導要領や社会の変化に対応するために、今後の学校がどうあるべきかという視点からお話をいただきました。



カリキュラム・マネジメントとは、学校の教育目標をよりよく達成していくこととする営みを指します。今回の研修を踏まえ、本校の教育目標を達成するために、教育課程、校内組織の在り方、日々の授業の改善や、教科を横断した取り組み等について認識を深めることができました。